

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

### 【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	路面凍結及び積雪が認められる状況下での出勤途上における交通事故事案
3. 体験した事例の中心的要素	特定救急指令により消防署から出勤途上、当該車両が交差点進入後、進行方向上り坂に停車中の相手乗用車を交わして対向車線から走行車線に戻るためハンドルを切り、停車中の相手乗用車と、同じく対向車線で停車していた軽自動車の間を抜けようとして、当該車両との車両間隔を確認するために一時停止したところ、路面の凍結により当該車両が滑り出し、当該車両左側面と相手乗用車のフロントバンパー、左バックミラー及び南西側石垣に接触したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	直接の事故原因としては、路面凍結の影響によるスリップである。事故時は天候は雪で、1cm程度の積雪があり、路面の凍結が視認し難い状況であった。 なお、出勤前に四輪駆動に切替えて出勤したこと及びスタッドレスタイヤを装着していたことから、タイヤチェーンの装着までは必要ないと判断したこと及び事故発生時は相手方乗用車が緊急走行に配慮して停車しているものと考え、速やかに通過しようと、路面状況を確認せずに車両を進めたことも誘因であると考え。

### 【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

### 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成27年1月1日 午後9時頃
2. 発生した当時の天候	雪
3. 発生した活動現場	屋外：交差点及び生活道路上
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	救急出勤途上
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：出勤途上の交通事故
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[43]歳、勤続年数[19]年、現場経験年数[19]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[46]歳、勤続年数[16]年、現場経験年数[9]年、階級[消防士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [機関員]
○当事者C	年齢[28]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	20歳、勤続2年、現場経験2年、消防士

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A~C、その他	消防署庁舎内で出動指令を受ける	
経過2	A~C、その他	積雪を確認し、消防車を4輪駆動に切替出動	
経過3	A~C、その他	交差点進入後、上り坂を停車車両を交わしながら走行中にスリップし事故発生。	
経過4	A	事故発生を、司令課に無線連絡	
経過5	A, B, C, その他	普通乗用車の乗員の安否確認、現場保存	
経過6	A	消防署へ事故発生の連絡	
経過7	A	警察署へ事故発生の連絡	
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

「大丈夫だろう」と油断していた。より注意深く安全確認を行うべきであった。
--------------------------------------

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

積雪等の気象条件下では、2台の車両の間を走行する際、必ず下車して路面の状況を確認するとともに、誘導員をつけるか、または手前で停車して車間を確認した後に通過するよう徹底した。

○装備・資機材の対策について

スタッドレスタイヤ及び四輪駆動車の特性を正しく理解し、路面状況から適切に判断して、時期を失することなくタイヤチェーンを装着するよう徹底した。

○活動環境の対策について

夜間の積雪時等、路面の状況が視認し難い場合は、必ず下車して路面状況を確認するよう徹底した。

○指揮・情報伝達の対策について

特になし。

# 【現場配置詳細図】

